



㈱千田精密工業

千田 ゆきえ 取締役 (34)

九州の脊振山地に決まるのではないかと心配していましたが、北上山地に決まり、まずは安心しました。

ILCは、ものづくりの力を発揮できるフィールド。今後、東北の企業連携がさらに深まればと思います。



米里婦人会

及川 レイ子 会長 (63)

ILCができ、地元若者の働き口が増えることで、地域の高齢化に歯止めがかかればと思います。

研究者やその家族の人たちと、東北の文化を通して交流ができる日を夢見ています。

喜びの声

Interview

CONGRATULATIONS

— 皆さんからコメントをいただきました —

国内候補地の決定を受け、市内はもとより東北各地で喜びの声が湧き上がりました。これまで、ILC特集や希望のひかりコーナーに登場していただいた人を中心に、これから期待することや決意などについてインタビューしましたので、ご紹介します。

市立前沢中学校3年

佐々木 美紅 さん (14)



齋藤教授から、ILCができると岩手が世界に誇れる場所になるというのを聞いていたので楽しみです。

素粒子や宇宙について専門的に学んで、将来、ILCに関係する施設で働いてみたいと思います。

県立水沢高校理数科3年

軍司 啓宏 さん (17)



地元に残って研究に携われる可能性が広がったことがうれしい。研究者になるという夢に近づきました。

ILCには、ヒッグス粒子を詳しく調べることやダークマターなどの新しい発見に期待したいです。

国際ILCサポート委員会

ビル・ルイス 委員長 (44)



ILCができれば、大好きなこの場所がさらに良くなります。教育面で、子どもたちと研究者がお互いに成長していくことを期待しています。

今後も、外国人が生活しやすい環境づくりに協力していきたい。

市国際交流協会

佐藤 剛 会長 (57)



この決定は、この地域の国際化を具現化する最大の機会を与えていただいたことになります。

外国人の意見が、行政やILCの機関にスムーズに反映されるよう、「触媒」の役割を果たしたい。

ファミリーマート水沢寺小路店

佐藤 恵一 店長 (31)



国内候補地が決定し、これからの取り組みがさらに重要になるのではないかと。この決定を契機に、英語を吸収しやすい環境をつくるなど、若者が中心となって活動を進めていくことが大切だと思っています。

市立衣川小学校6年

佐藤 あかり さん (11)



ILCによって元気で活気のある明るいまちになってほしいです。

外国の人と交流してみたいので、外国語の勉強を頑張りたい。私は神楽をしているので、日本の伝統芸能を外国の人に教えたいです。

NPO法人 イーハート宇宙実践センター

大江 昌嗣 理事長 (72)



東北の地が、世界が注目する最先端の研究を行える場所になることに、さらに近づけたと喜んでます。

若者や子どもたちが、生まれ育った地域で勉強や研究、そして働ける日が来ることを願っています。

胆江日日新聞社

児玉 直人 次長 (34)



今後は、一緒に誘致活動を進めてきた九州と連携することを考えてほしいと思います。

記者として、ILCの報道に携われることがうれしい。今後も、わかりやすく伝えていきたいです。

海外からもメッセージをいただきました

ドイツ・マインツ大学

齋藤 武彦 教授 (42)



ILCの国内候補地に選ばれ、本当におめでとうございませう。一人の岩手県と東北の大ファンとして、ドイツの地で喜んでます。世界で一番格好よい岩手県にまた一歩近づきましたね。

高エネルギー加速器研究機構

佐々木 修 教授 (56)



正直言ってホッとしました。今後、ILCの日本への誘致に向けていろいろな動きがあると思います。プロジェクト推進や建設の「パートナー」として、知恵を出し合い協力して進めていけたらと思っています。

奥州商工会議所

千葉 龍二郎 会頭 (69)



国際感覚が地域に浸透することで、教育や医療など国際化に対応した環境が整うことを期待します。

相当時間がかかると思うが、みんなで力を合わせて取り組んでいくことにバックアップしていきたい。

いわてILC加速器科学推進会議

亀卦川 富夫 代表幹事 (73)



世界が協力し、唯一の国際研究所を立地するという夢を実現するためのスタートです。ILCの果たす大きな意義を学び、そのILCを中核とした地域社会の大きなビジョンをみんなで描き、未来に託したいですね。

これまで市は、関係機関・団体などと連携しながら、さまざまな取り組みを展開してきました。

こうした中で、市民の皆さんのILCに対するご理解や熱心なご支援もあり、北上山地が建設候補地に選定されるという、大きな実を結ぶことになりました。

ILCは次なる段階へ

建設候補地が北上山地に決定し、実現に向けて次の段階を迎えたILC計画。今後は、政府が正式に国家プロジェクトとして位置付けることが重要になります。首相官邸の特設機関「日本学術会議」に設けられた検討委員会では、ILCの学術的な意義などについて、審議を終えました。同委員会は、これまでの審議の中で「ILCの学術的意義は十分にある」としながらも、国内の実施体制や必要経費の国際分担などの不確定要素があり「現時点で本格実施のゴーサインを出すことは時期尚早」との見解を示しました。

一方で同委員会は、ILCの実施に向けた課題検討のため①予算措置を行うこと②課題事項に対して明確な見通しを得ること③海外の主要機関との予備交渉を進めること④の3点を挙げています。

審議結果は、9月末に文部科学省へ正式に答申される予定です。

政府は、この答申を受け、秋の臨時国会以降に対応を表明するとみられ、今後の政府の動向が注目されます。

ILCの実現に向けて

世界の研究者の間では、日本での建設に期待する声が多く、今回の決定により、北上山地は事実上の世界の候補地となりました。

市は、政府がILCを正式に国家プロジェクトとして位置付けるよう、今後も県や周辺自治体、東北ILC推進協議会などと連携して要望活動などを行っていきます。

また、ILCの実現を見据え、外国人研究者とその家族の受け入れ体制などの構築とともに、講演会や出前講座を積極的に開催し、なお一層の機運醸成に向けた取り組みを進めていきます。